

Epistula

winter
2013

特集1 芸短フェスタ イベント報告!

特集2 車いすプロアスリートを直撃!

廣道純選手インタビュー&大分国際車いすマラソン大会



[表紙モデル] 車いすプロアスリート 廣道純選手、国際文化学科2年:木薮守さん、河野由芽さん、出口英さん

vol. 33



大分国際車いすマラソン交流イベント
～大分から世界へ、廣道純選手の挑戦～

10/18

毎年「大分国際車いすマラソン大会」の時期に合わせて行うイベント。今回は、パラリンピックや世界選手権など、数多くの大会に出場する車いす陸上競技界のプロアスリート・廣道純選手による講演を行いました。講演では、車いす生活になった頃からプロアスリートとなった現在までの話をされました。英語も分からないまま海外へ行き、車いすマラソン世界記録保持者の元へ弟子入りしたり、突然会社を辞め、保証もないプロの道へと進むなど、行動力あふれるアクティブ人生に聴講した方々も興味深く聞き入り、多くの事を得たようでした。

専攻科造形専攻 制作展

10/29～
11/3

本学 専攻科造形専攻1年生による作品展。洋画・彫刻・ミクストメディア・ビジュアルデザイン・陶磁・プロダクトデザイン・テキスタイルなど、学生たちの自由な表現による作品の数々を展示。日頃の学習の成果を発表しました。



第49回 定期演奏会

10/14

毎年10月にlichikoグランシアタで開催する本学 音楽科の最大イベント。芸文短大音楽科の全学生と教員、卒業生らが出演者としてスタッフとして総力を挙げて取り組んでいるもので、今年度は管弦打に焦点を充てた内容でした。マーラー作曲 交響曲第1番「巨人」をメインに、ワーグナーとヴェルディ生誕200年を記念し、彼らのオペラの名曲を混声合唱とともに披露。パンダ(舞台外の楽隊)を使った臨場感あふれる舞台と大編成で迫力のある演奏に、多くの方々が魅了されていました。



〈特集1〉芸短フェスティバル報告!

10月から始まった「芸短フェスタ2013」もいよいよ後半にさしかかりました！
今回の特集は、これまで開催したイベントの様子をお伝えします。

ideal Picture

10/12～
11/10

「the bridge」内オルタナティブスペースにて開催した九州芸術系大学の教育研究機関が交流する企画展。様々なアーティストたちが「写す」ということを印刷、版画、写真、グラフィック、映像で表現しました。初日は、本学専攻科 田中愛理さんによる公開制作「生の痕跡」の複製行為を行いました。「無」であった白壁が、彼女の手によってどんどん作品が広がっていき、観覧に来られた方々は、その様子を息を飲むようにして見つめていました。会期中は大分市美術館館長 菅章氏をモデレーターに迎え、「メディアコピーとアウラー「写す」芸術とは？」を開催、デジタル表現「メディアコピー」が前提にある現代の表現感覚について議論しました。

国際理解ワークショップ

10/13

「ケータイを通して考える私たちと世界のつながり」と「学生と一緒に考える～世界の貧困問題と私達にできる事～」の2つの議題について、本学 国際総合学科の教員と学生がホルトホール大分とlichiko総合文化センターでワークショップを行いました。参加された方々は、実際に自分が体感・実感することにより、ただ新聞やニュースなどで見聞きするよりも、さらに深い関心・興味が沸いたようでした。そして、自分たちに何かできること、しなければならぬことは何かということに改めて考える時間になり、それは大きなことから、日常でできる小さな事までたくさんあるのだということが分かりました。



第52回 芸短祭 ～爆笑～

10/19, 20

恒例のステージイベントでは、サークルショーをはじめダンス&サイレントコメディ「GABEZ」、マジシャン「Wazuma HIRO」、大分のご当地アイドル「Chimo」と「Niimo」など豪華ゲストの登場で大いに盛り上がりしました。またサークル・ゼミによる出店では、大分の郷土料理「とり飯」や中国留学生が作る本場の味「中国の煮もの」、スパイシーな「タコス」などなど、多国籍なフードメニューがずらり。マレーシア雑貨やフェアトレード商品、美術科学生による作品といった小物類などの販売も行い、賑わいました。





日田特別演奏会

11/4

本学がiichikoグランシアタで毎年行っている「定期演奏会」を、普段クラシックの生演奏を聴く機会が少ない地域の方々にも楽しんでもらおうと、日田市にある「パトリア日田」にて開催した演奏会。バス5台で乗り着けた大人数による迫力ある演奏に、小中高生から一般の方まで幅広い年代層の方々に感動の輪が広がりました。



芸短デザインスクール2013

11/2

今回は、2015年新設予定の大分県立美術館のロゴマークデザインを手掛けられた平野敬子氏・工藤青石氏(CDL)を講師に迎え、「県立美術館におけるコミュニケーションデザインのビジョン」と題した1日限りのデザインスクールを開講しました。お二人の作品紹介と共にブランディングの考え方やデザインを具体化するまでのプロセス、思いについて講演。また、県立美術館のロゴマーク(OPAM)の制作秘話や、大分における美術館の役割について熱く語っていただきました。

動物の命を考えるシンポジウム

10/26

大分県出身で「子ぎつねヘレンがのこしたもの」著者である獣医師・竹田津実氏らを招いたシンポジウム。子ども達のやさしい心との交流で、傷ついた野生動物たちの治療・保護に尽力する竹田氏のエピソードや、殺処分ゼロ運動を目指す熊本市動物愛護センターの取り組みについて講演、改めて「動物の命の大切さ」について考えました。



佐藤美枝子客員教授 音楽公開レッスン

10/26・27

本学音楽棟 小ホールにて佐藤美枝子客員教授による音楽公開レッスンを開催しました。今回の公開レッスンでは、両日で本学専攻科の学生11名、審査を通過した一般の方3名の計14名が受講しました。世界的に活躍するプリマドンナ佐藤美枝子氏によるレッスンは、受講者にとって貴重な時間となり、聴講していた学生・一般の方々も、熱心にその様子を観ていました。



大分市議インターンシップ報告会

10/19

「市議インターンシップ」は、学生が議員の仕事に同行し勉強する機会、6～9月の約3ヵ月間、大分市議会に通い議会や委員会の傍聴をしました。その報告会では、現地視察で学んだことや、市役所の各課に調査へ行き一般質問を作った経験、市議会の仕事内容などを中心に発表しました。報告会には一般市民の方も参加し、学生らに質問を行いました。昨年に比べ、学生たちは市議会への知識が増し、答弁も熟練度が上がったようでした。



ヨーロッパ各国の歴史や文化、現在の姿を映像や音楽を交えながら分かりやすく解説。講義終了後は、その日学んだ国のワインを味わいながらの懇談会を実施するという大人のための講座。第1回はフランス、第2回はオーストリア、チェコ、第3回はスペイン、ポルトガル、第4回はイギリス、イタリア、そして最終回は駐日EU代表部による特別講演を行いました。

第1期「ヨーロッパ講座」

10/30
11/8・13・27
12/4

大分市美術館「シャガール展」連携イベント

11/2・4・23
12/1

大分市美術館で開催された「シャガール展」の連携イベントとして、講演会、ワークショップ、演奏会を行いました。講演会では、美術科 於保政昭講師がシャガールが生涯2000点もの版画作品を残したことにちなみ「シャガール版画芸術としての版表現」と題し、版画についての歴史や文化、技法からシャガール作品について分かりやすく解説。国際総合学科 永田道弘准教授は、シャガールの代表作「エッフェル塔と新婚の二人」を、当時のパリの文化状況から映像とともに読みときました。ワークショップでは「コラグラフ」という特殊な版画技法を用いてシャガールならではの色彩豊かな作品づくりを体験していただきました。



保戸島映像音楽祭

11/3・4



津久見市出身の本学学生らが主体となり、「津久見を盛り上げよう!」と企画・運営したイベント。保戸島小中学校体育館などを会場に、島の小中学生らが出演したオムニバス映画「海上の迷宮(ラビリンス)」の上映や、島出身のソプラノ歌手・清家麻衣さん(本学非常勤講師)の「里帰りコンサート」を開催、観客200名以上を迎え、たいへん賑わいました。この「保戸島映像音楽祭」は、昨年6月に学生たちがゼミ旅行で保戸島を訪れたのがきっかけで企画されたもので、多くの方々にご協力いただき、2年がかりで実現しました。主体となって頑張った情報コミュニケーション学科2年の葉真寺亜衣さん、川野亜弥さんは、「準備のため、島を訪れるたびに島民の皆さんに温かく迎えていただきました。特にうれしかったのは、ある島民の方のお宅を訪れた時、昨年の写真展で展示した写真を自宅応接間の一番目立つ場所に飾ってくれていたことです。色々な事に協力していただき、「次に来る時は電話するのよ」と、孫のようにかわいがってくださいました。毎月のように島を訪れ、島の人々と交流を深め、準備をして成功することができました。多くの人に「保戸島映像音楽祭」を見てもらえて、うれしかったです。「とてもよかったよ」「こんなの初めてだ!またしてね!」など、うれしい言葉を皆さんからいただき、本当にがんばってきてよかったです」とイベント大成功の感想を述べました。



〈特集2〉車いすプロアスリートを直撃！

廣道純選手インタビュー & 大分国際車いすマラソン大会

今号の表紙にも登場していただいた車いす陸上競技界のプロアスリート廣道純選手に、国際文化学科2年の河野由芽さん、木藪守さん、出口英さんがインタビューを行いました！

「車いすの競技に出場しようと思ったきっかけはなんですか？」

出場しようと思ったというよりも、始めようと思ったのは、入院してた時のリハビリの先生のアドバイス。リハビリでできることがなかったんですよ。背骨がひびき、動けるようになった時から車いす自分で乗れてたし、体操やてたら、手の力もともあつて。だから普通は車いすに乗るための訓練をしたり、バランス感覚を養って……というのすべてでできてしまったんで、病院でできることがない……という時に病院の先生が「車いすでもスポーツができるから見学に行こう」とスポーツセンターに連れて行ってくれて。それでみんなが走っている姿を見て「あーおれ、これやる！」って。退院するまでの間、体を鍛えるために先生はそういうスポーツの世界を見せてくれたんですよ。そうやってスポーツができるっていうのが分かってからは、8月くらいに陸上を始めて、初めて大会に出たのが年明け3月のハーフマラソンで、4月にはフルマラソンに出場した。だから「大会を目指して頑張るぞ」とかそんな人は特になくて、陸上

やりだしてその距離が走れるようになってから出場したというカンジ。

「ホームステイをされた際に苦労したことはありますか？」

苦労……うーん。苦労はしてないかな。

「英語とかは？」

英語は、ある程度しゃべれるようになってから行ったから……。ホームステイする前、最初に世界チャンピオンに出会う時も「会いたい」と思ってホストンまで行って、すんなり苦勞せず会えたし、会って声をかけたら、名刺くれて「連絡して」というので。だからホント苦勞せず、ボンボンと勢いで全部うまくいって……。出会って一年くらいしてから、家に呼ばれたんやけど、最初に出会った時に「英語を勉強しよう」と思ってたから、そんなに困ることもなかったな。

「これまでに数多くの素晴らしい成績を残されていますが、その成績を残すための努力とかを教えてください。」

基本、最初の入り口は「楽しいな」と思ってた。楽しいから練習する。練習すれば速くなる。人よりも速く走ることが楽しいからと練習をする。……と。どんな人よりもたくさん走

る。……というのを繰り返していったら、また結果が出た。……という感じが、やっぱり勝つために何かをやっているというよりは、楽しむためにやっている結果が速くなった。という方が強いから、これまた苦勞してないんだわ（笑）。好きなことを楽しんでやっていると「練習が嫌だな」と思ったことはないし、「レースをやめてしまいたい」と思っただけはないし、負けた時も、負けた時に感じる悔しさであつたりとかを、楽しんでるから「あー悔しいな。速い奴がおったんや」「よし！じゃあまた次頑張ろう！アイツに勝とう！」みたいなのが、次の試合に向けての練習になったりするというので、ホントに22年間ずっと楽しい。

「22年間、続けてこれたのは、何か支えとかあつたんですか？」

22年間、続けることが大変なことやたら何かが支えがなくなるけど、大変じゃないから、支えは基本ない。日常のどんなことにおいても、支えられない、支えられない。自分で支えてるから。……と。……という性格。人に支えられるというタイプではないね。「人を支



えたいな」と思うことはあつても、誰かに頼ったりっていうのは嫌いだから。「一人で生きてやるぜ！」的な（笑）。

「今後の目標ってありますか？」

まだ金メダル獲れてないから、パラリンピックでの金メダルっていうのは次のリオでも狙うし、リオの次の東京でも狙

うし、おそらく年齢的には東京の次、2024年くらいまではフツウにトップで戦えるやろつし、環境さえ今の状況で走れる環境が続けば、ハインツが55歳でトップでやってくるっていう目標があるから、最低でもそれくらいか、60歳くらいまで。あと子供が生まれたら、0歳から0歳だから、あと20年間はトップでやり続けられたいな。その間ずっと世界一を目標にやり続けたいというのが目標かな。

「車いすマラソン大会の学生ボランティアについて教えてください。」

学生に期待することとかね、ボランティアになって何かをするとかそういうことよりも、まずはやっぱりレースを見たり、いろんな世界中から集まってくる選手達を見て、そういう選手たちがどんな風に競技に参加して、どういう動きをしているのかっていう細かいところまで見てほしい。おそろく何も知らずに、車いすマラソンのスタッフに……。……という人たちは「障がい者がやっているスポーツ」「何かをお手伝いせないかな」という風に思っちゃうかもしれないけど、たぶん手伝いが必要な選手って俺の中では誰ひとりおらん、くらいに思ってるね。それくらいみんなはアスリートやし、できて当然のことなんやけど、知られてないことで「障がい者はかわいそう」とか「障がい者が必要や」という風に世間的には思われているのを、こういう大会を通して「そうじゃないや」ということを、多くの人に知ってもらいたい。そして、その感じたことをできるだけ多くの人たちに伝えていってほしいな、と思います。

芸短フェスタ2013 「大分国際車いすマラソン交流イベント～廣道純選手の挑戦～」を開催しました！



Profile

廣道 純 (ひろみち じゅん)

1973年12月21日 大阪生まれ。1989年、高校1年の時にバイク事故で脊髄損傷により車いす生活となる。17歳で車いすレースの世界に入り、1994年、車いすマラソン世界記録保持者ジム・クナーブ氏へ弟子入りを志願。彼の元で生活をしながら、トレーニング方法を学び、アスリートとしての素質を開花させる。その年のボストンマラソンを皮切りに世界各国のレースに出場。数々のメダルを獲得する。『第33回 大分国際車いすマラソン大会』では、総合5位の成績を残した。

「第33回 大分国際車いすマラソン大会」出場目前となる10月18日、芸短フェスタイベント「第4回 大分国際車いすマラソン交流イベント～大分から世界へ、廣道純選手の挑戦～」を開催しました。講演では、車いす生活になった頃からプロアスリートとなった現在までのお話をされました。英語も分からないまま海外へ行き、車いすマラソン世界記録保持者の元へ弟子入り志願したり、突然会社を辞め、保証もないプロの道へと進むなど、行動力あふれるアスリート人生に聴講した方々も興味深く聞き入っていました。



「第33回大分国際車いすマラソン大会」ボランティアスタッフレポート！

10月27日に開催された「第33回大分国際車いすマラソン大会」に、ボランティアスタッフとして参加した学生からレポートが届きました！

私が担当になったフィリピン人のハロルドさんは、陽気で明るい性格でレース前日も楽しそうに仲間と話していました。しかしレース本番、すごく緊張した姿のハロルドさんがいて「どうしたの？」と聞くと「手が朝から痛んでてそれが気になって。でも、諦めず頑張ってみる」と話していました。そして、レース開始を見届けたあと、私はゴール地点の陸上競技場に向かいました。すると、途中リタイアしたハロルドさんが泣きそうな顔で私を待っていました。「I'm sorry」を何度も繰り返して、辛そうにしているハロルドさんに、私は何か伝えてあげたかったのですが、それを英語で伝えることができませんでした。ただ背中をさすってあげることしかできませんでした。その後、ハロルドさんはずっとゴール前で次々とゴールする選手たちを一生懸命声を張り上げて応援していて、その姿がすごく印象に残っています。本気で1位を目指している選手、ただ楽しむために走っている選手、それぞれの思いを持って選手がいたけど、どの選手も本当に輝いてみえました。私はこの活動を通して、いろんな体験、いろんなことを学ぶことができました。英語が伝わらなかつたり、聞き取ることができなかったりもしました。しかし、シンプルだけど、言葉が通じなくても自分が伝えようとする、相



国際総合学科1年 朝光萌梨

英会話力の足りなさはもちろんですが、メインの選手のサポートもまだまだ力不足だったなと感じました。しかし、選手と話さずとも英語を勉強したい、気持ちはずっと英語を勉強したい、選手が全力で車椅子マラソンに挑

ている姿を見て「選手がこんなにも頑張っているのに私が頑張らない訳にはいかない」という気持ちがとても湧いてきました！この気持ちを忘れないように、行動にうつしていきます！とても良い経験が出来て私は幸せです！

国際総合学科1年 柳田真智子



GEITAN NEWS!

「地域巡回演奏会」で
小・中学生に演奏を披露しました



「地域巡回演奏会」で、9月11日に臼杵市の「福良ヶ丘小学校」、12日に日田市の中津江にある「中津江ホール」を訪れました。これは、普段クラシックの演奏を聴く機会のない地域の小・中学校生徒や一般市民の方々を対象に、音楽の素晴らしさを知っていただく事を目的とした本学独自の取り組みで、昭和61年から開催しています。当日はピアノやオペラ・バイオリン、打楽器や金管による演奏、合唱などを披露しました。

第2回オープンキャンパスを開催しました

9月16日、今年度第2回目となるオープンキャンパスを開催しました。全体説明会では、中山欽吾学長が本学のキャッチフレーズである「小粒でもキラキラ輝く宝石のような存在になる」この合言葉とともに本学の魅力と大学生生活を送る上での心構えを述べ、「市街地に近い上に緑が多いキャンパスはめったにありません。自然あふれる中で、しっかりと学べる環境にあるのが魅力です。小さい大学ですが、いろいろな学ぶチャンスがたくさんあります」と話しました。説明会後は各科に分かれてさまざまなプログラムを実施。それぞれの特色をPRしました。



ピアノ特講&トロンボーン公開レッスンを実施しました

音楽科では著名な講師をお招きし、集中講義や公開レッスンを実施しています。9月17日、20日は、大分県出身のピアノリストで、東京藝術大学名誉教授である幸島輝治先生にお越しいたき、バロック・古典派の作品について指導を受けました。また、9月21日にはNHK交響楽団トロンボーン奏者 池上直氏による公開レッスンを実施。貴重な指導に学生たちは熱心にレッスンに励んでいました。



「シャガール展」特別鑑賞会を開催しました



11月1日、大分市美術館で公開された「シャガール展」の特別鑑賞会を開催しました。大分市美術館館長である菅原氏のあいさつの後、美術館職員による展示解説を聞きながら、シャガールの魅力に触れました。閉館後の特別鑑賞会とあって、みなさんゆっくりと鑑賞できたようでした。

本学 留学生が公開プレゼンテーションを行いました



9月27日、企業から出された課題に対し、学生が研究をして解決策を提案する「PB型インターンシップ」の公開プレゼンテーションがホルトホールで開かれ、中国・江漢大学から本学に留学している石美（セキミ）さんと周雅晶（シユウガシヨウ）さんが出席。中国へスイーツのお店を展開する戦略「カフェをより良くするための改善提案」について発表しました。どの留学生も真剣に課題に取り組んで魅力的なアイデアを述べていました。

芸短音楽科コンサートシリーズNo.69「若さあふれるコンサート」を開催しました



9月16日、iichiko総合文化センター音楽の泉ホールにて「芸短音楽科コンサートシリーズNo.69 若さあふれるコンサート」を開催しました。この演奏会は、前期実技試験の成績優秀者によるコンサートで、14名の学生が学習の成果を発表しました。

【出演】泉紗貴／小淵真実／漆間夏希／牧山亮／高橋保美／三輪衣里／藤田英昭奈／高橋依杏／田尻菜月／上村梨世／齊藤天友子／中村有里／南菜穂／中山ほか

「別府湾会議2013～ソーシャルファブを育てよう!」が開催されました



9月1日、2日、ハイパーネットワーク社会研究所の設立20周年を記念した「別府湾会議2013～ソーシャルファブを育てよう!」(ハイパーネットワーク別府湾会議実行委員会主催)が本学にて開催されました。国内外の研究者・クリエイターら、情報社会の次の20年を推進し、インターネットに匹敵する大きなインパクトを社会に与えるとの仮説をたて討論・検証したほか、子どもたちでも楽しめるワークショップなどが行われ、多くの方々に賑わいました。

アメリカ各都市と成田を結ぶ国際便を運行する大手航空会社「ユナイテッド航空」の日本語版内誌(9月1日発行号)に、本学の記事が掲載されました。「短大という強みを活かして」という表題で、時代に即応した改革を実行し注目されていると紹介。ビジネス客が多い日米路線での機内誌という点で、「国際人材の育成」という視点を主に、今年度学科再編し発足した国際総合学科の話題を中心に書かれていました。



「ユナイテッド航空」の機内誌で本学が紹介されました

大分まちなかTV開局!



本学学生と大分市中心部の商店街などの人々が、インターネットで街の魅力を発信する「大分まちなかTV」(USTream配信)が10月13日に開局し、この日初放送を行いました。この「大分まちなかTV」は9月に県が実施した「街なかぎわいプラン」公開プレゼンテーションで優秀賞を受賞したプランで、2、3週間に1回約90分間のスタジオ放送を行うほか、街頭からイベントなどを随時配信する予定です。

「自動車税納期内納付広報用ポスター」デザイン制作説明会が行われました



県総務部税務課より「平成26年度版自動車税納期内納付広報用ポスター」の制作依頼を受け、その説明会が本学で行われました。ポスターデザイン制作依頼は今年で二回目となります。大分県はこれまで、自動車税の納期内納付率が最下位という状況にありましたが、本学学生が広報ポスターを手がけた平成25年度は納期内納付率が1.91%アップしたと、最下位脱出も期待できるところとなりました。担当者は「26年度もさらに納付率が上がるようなポスターを作っていただきたいと思います」と学生らに期待を寄せていました。

学内ギャラリー 9月11日

本学 美術科の学生による作品を展示。学内ギャラリーは、午前9時から午後6時まで一般公開しています。学外からお越しの際は、大学事務局にお声掛けください。

土と歩む

10月18日～22日



美術科デザイン専攻2年 岩本 隆太、葛城 健太、仲林 真麻、専攻科造形専攻1年 江島 成人、川合 風望、専攻科造形専攻2年 猪飼 佑衣

three types

10月8日～15日



美術科デザイン専攻2年 高橋 若菜、丸山 愛、柳元 優季

46億年の記憶

10月1日～7日



美術科デザイン専攻2年 平川 雅英

どこそこにあふれる立場

9月25日～30日



専攻科造形専攻2年 東郷 美佳

絵の具の形

11月18日～25日



美術科美術専攻2年 臨田 好恵

birth

11月7日～13日



美術科美術専攻2年 梅木 晴帆

ぶろだくと

10月30日～11月6日



美術科デザイン専攻生活造形2年

ひかりのかたち

10月23日～29日



美術科デザイン専攻2年 「インテリアデザイン」受講生

表紙の顔

本広報誌のモデルは、各学科から頑張っている学生さんに登場してもらっています。今回は、車いす陸上競技界のフリアスリート廣瀬純選手に特別参加して頂きました。学生モデルは、国際文化学科2年生の本蔵守さん、河野

●「おおいだ教育の日エッセー」優秀賞受賞
「おおいだ教育の日エッセー」で、情報コミュニケーション学科1年 工藤明日香さんが優秀賞を受賞しました。

●「バックデザインコンベンション」特別賞受賞
日本バックデザイン展2013とやま「バックデザインコンベンション」で、美術科2年 丸山愛さんが特別賞を受賞しました。

●「おおいだ教育の日エッセー」優秀賞受賞
専攻科造形専攻と美術科デザイン専攻の学生がゼブラ株式会社とコラボして寄付金付きボールペンを制作。

●音楽科コンクール
【第67回全日本学生音楽コンクール北九州大会本選2位】齊藤美友子（音楽専攻1年）須山恵理香（音楽専攻1年）【第62回南山音楽コンクール入賞】吉元優希乃（ピアノ専攻1年）【第2回九州新聞社ピアノコンクール第2次予選】福岡市立音楽ホール（福岡市立音楽ホール）【第2回九州新聞社ピアノコンクール第2次予選】福岡市立音楽ホール（福岡市立音楽ホール）

日々是精進

学生のアイデア溢れる作品や企画が賞を受賞。デザイン化や実現されたものも！

学友会情報

こんにちは、学友会です。10月の18・20日（18日は前夜祭）に、本校最大のイベント「芸短祭」を開催しました。お天気はあいにくの雨模様でしたが、歌あり、踊りあり、演奏あり、パフォーマンスあり、出店ありと、とても楽しいイベントとなりました。今後も、クリスマスパーティーや卒業パーティーなど、楽しいイベントを企画していきます。よろしくお願ひします！



玉井ゼミ宿泊合宿

毎年恒例の合宿。遊んで、勉強してのびのびとしている学生たちを見ていると、こちらも楽しい気持ちになります。朝早くから炭火で魚を焼いて食べたり、学生はみんな元気なもので、羨ましく思います。

夏、秋と季節的に合宿、交流会、地域イベントなど竹田キャンパスもいろいろと利用機会が増えています。その中で、夏合宿としてプロダクトデザインのゼミ合宿が行われました。24時間フルに頭を使ってのデザインスケッチ。こういった授業もこの場所ですごくできない事なんだなと感銘を受けました。学生たちにも貴重な授業です。遊びにしろ、勉強にしろ、この竹田キャンパスでしかできない取り組みを、どんどん行ってもらえればと思います。



※竹田キャンパスは、廃校となっていた下竹田小学校（竹田市市道入町）を利用して、地域と密着したさまざまなアート活動を行っています。



第2回フェアツリズム国際大会

廃校利用策を模索する一環として、竹田キャンパスの活用状況について視察団が来訪。現状報告や意見交換、染色体験で交流しました。大学を母体とした廃校再生は例がなく、興味深く視察していました。



佐世保アートマーケット

長崎県佐世保市の広瀬公園にて開催されたアートイベントに参加しました。今回の出展者は佐世保の人がほとんどで、佐世保のアートと自分のアートの話ができてとても勉強になりました。



道ばたコロリのみもの市

宮崎県日向市、日向駅高架下にてハンドメイド雑貨イベントに参加しました。あいにく台風の影響で最初は雨風が酷く客足が心配でしたが、思った以上に多くの方が訪れてくれ、楽しんでいました。



生きがいサロンエコバッグ作り

竹田市にある「生きがいサロン玉来分館と城原分館にておじいちゃん、おばあちゃんのエコバッグ作り体験を開催しました。みなさん、ワイワイ楽しみながら素敵なバッグを作ってくれました。

今後のイベント予定 ●「第8回 竹田キャンパス地域交流会」12月

たけたみつけようサークルが長湯温泉を取材



自発的に竹田を取材・情報発信する試みを「たけたみつけようサークル」と名付け活動！長湯温泉にも取材に訪れました。

森林セラピーで高崎山・銭瓶峠・杵原神社などを取材



大分市が行う「森林セラピー事業」の情報発信のお手伝いとして、高崎山・銭瓶峠などを取材、情報収集を行いました。

おおいだ夢色音楽祭に参加しました



毎年恒例「おおいだ夢色音楽祭」に今年も参加。MC（進行役・司会）や運営ボランティアとして大いに活躍しました。

サービスラーニング報告

「大学で学んだことを地域で活かし、地域で活動することで学びの意義を知る」ことを目的としたサービスラーニング。単なるボランティアでは終わらない、自主性・論理性・協調性のある「社会人力」を育成するプログラムを組んでいます。今回の報告のほかにも様々な活動を行っています。詳細は、情報コミュニケーション学科HPをご覧ください。

第87回あしなが学生募金に参加



今回の募金は、災害や病気・自死によって親を失ったり重度の障害で働けなくなった遺児たちの奨学金として使用しました。

「おいなりさんが舞いコンだ!」に参加



大正始め頃に竹田市に伝わってきた祭り「おいなりさんが舞いコンだ!」が復活したということで、取材を行いました。

佳境を迎えた芸短フェスタ

学長コラム



中山 欽吾
似顔絵：学長秘書 佐々木優季

先号で述べたように、今年の佳境は「本学の学生たちの活動分野が広がっているのが実感できる内容」になったことです。私が着任した際に掲げた「小さくてもキラキラ輝く宝石のような大学になる」という目標はすでに実現していますが、5年後の今年はその輝きが更に強くなるかと実感しています。

各学科とも、学外活動は大幅に増えています。大学の外では、不況、少子化、要介護老人の増加、都市への人口集中と過疎問題など、大きな社会変化が訪れており、大学も聖域ではあり得ません。社会の波を自分なりに受け止めて、それに向かおうとする学生が出てくるのが問われるのです。回避するのではなく「どうすればその波に乗れるのか」と考え、行動することが大切です。今回の芸短フェスタから感じる「何かは、その行動力が活動の中心に変化を与えてい

皆さんと同じ体験をするために、行事に参加するように努めています。全部という訳には行かないのですが、音楽科による定期演奏会と美術科による「id picture」は、数年前には考えられなかった内容でした。また、国際総合学科による「国際理解」は、海に囲まれた狭い国土しかない我が国にとって、努力しても獲得すべき経験なのですが、「国際理解ワークショップ」や「単一マラソン」での交流を通じて、まさにこの主旨を実践した価値ある活動でした。情「ミユモ」も平素から継続して竹田地域などで地元の人々と交流を続けており、市内商店街の活性化なども成果を挙げつつあります。

この勢いをエネルギーに、スパートを掛けようではありませんか。

芸 短 フ ェ ス タ 2 0 1 3

●芸短音楽科コンサートシリーズNo.71 管弦打コース演奏会
～師走に心温まるひとときを～

器楽アンサンブル、クリスマスにまつわる楽曲などを演奏。今年度より導入された授業「吹奏楽演習」での成果を披露します。

○日時:12月14日(土)18:00開場/18:30開演
○会場:lichiko音の泉ホール ○料金:無料

●凍田和美教授 退職記念シンポジウム
「大分県の教育の情報化のあゆみとゆくえ」

大分県教育委員会、公益財団法人ハイパーネットワーク社会研究所と協力し、県内の学校の先生方をシンポジストにお招きし、県内教育の情報化の歩みを振り返り、今後の将来像を探ります。

○日時:12月14日(土)13:30～
○会場:本学人文棟 大講義室 ○料金:無料



●Opera Piena di Vita本公演 オペラ「魔笛」

オペラサークルの学生自らが企画・演出を行っており、毎回多くの感動をよんでいます。今回は「魔笛」を歌唱をドイツ語、台詞を日本語で上演します。

○日時:12月18日(水)18:00開場/18:30開演
○会場:本学音楽棟 小ホール ○料金:無料

●GEITAN PRESENTS 佐々木典子リサイタル
～ウィーンのクリスマス～

ウィーン国立歌劇場で多くの舞台に立った日本を代表するプリマドンナ佐々木典子さんによるオペラコンサート。クリスマスの夜をロマンティックに彩ります。

○日時:12月24日(火)18:30開場/19:00開演
○会場:lichiko音の泉ホール
○料金:一般3,000円、ペア5,000円、学生1,000円
○チケット:大分県立芸術文化短期大学
lichiko総合文化センター 1F インフォメーション
トキハ会館3Fプレイガイド



●街中インスタレーション ～大分文化ゾーンイベント～

ホルトホール大分～JR大分駅～lichiko総合文化センター～開館予定の県立美術館を繋ぐエリア各所で開催するイベント。パレードやショー、ワークショップ、カウントダウンイベントなどさまざまな催しが盛りだくさん！

○日時:12月30日(月)～2014年1月5日(日)
○会場:ホルトホール大分～JR大分駅～lichiko総合文化センター周辺各所

学 生 募 集 に 関 す る お 知 ら せ

●一般入学試験(前期日程試験)

■本学独自試験※全学科実施

○出願期間/平成26年1月14日(火)～28日(火)
○試験日/美術科・音楽科:平成26年2月13日(木)、14日(金)
国際総合学科・情報コミュニケーション学科:
平成26年2月13日(木)
○合格者発表/平成26年2月20日(木)

■大学入試センター試験利用

※音楽科、国際総合学科、情報コミュニケーション学科

●音楽科:英語と国語は、本学独自試験がセンター試験のどちらかを選択
●国際総合学科:英語と英語を除く全教科・全科目から1科目
●情報コミュニケーション学科:国語と国語を除く全教科・全科目から1科目

○出願期間/平成26年1月14日(火)～28日(火)
○試験日/大学入試センター試験実施日のおり。音楽科は、平成26年2月13日(木)、14日(金)に音楽基礎科目と実技試験を実施。
○合格者発表/平成26年2月20日(木)

●一般入学試験(後期日程試験)

■本学独自試験※美術科、音楽科、国際総合学科

○出願期間/平成26年2月27日(木)～3月7日(金)
○試験日/平成26年3月15日(土)
○合格者発表/平成26年3月18日(火)

■大学入試センター試験利用

※国際総合学科、情報コミュニケーション学科

●全科目、全教科から2科目
○出願期間/平成26年2月27日(木)～3月7日(金)
○試験日/大学入試センター試験実施日のおり
○合格者発表/平成26年3月18日(火)

●専攻科入学試験 ※造形専攻、音楽専攻

○出願期間/平成25年12月16日(月)～20日(金)
○試験日/平成26年1月26日(日)
○合格者発表/平成26年2月5日(水)

情報を
いち早くGet!

大分県立芸術文化短期大学の公式facebookをはじめ、各学科やサークルがfacebookを立ち上げています。イベントや公開講座、キャンパス内の様子など情報満載です。



大分県立
芸術文化短期大学



音楽科



大分県立
芸術文化短期大学



美術科ビジュアル
デザインコース



大分県立
芸術文化短期大学



美術科メディア
デザインコース

情報
コミュニケーション学科

Event Calendar

※各イベントの詳細は、芸短フェスタリーフレットまたは本学HPに掲載しています。イベント情報は変更になる場合があります。

12月 December

4日(木)～11日(木) 学内ギャラリー「王子と玉子のカーニバル」
12日(木)～20日(金) 学内ギャラリー「イラストサークル展」
14日(土) 管弦打コース演奏会～師走に心温まるひとときを～
凍田教授退職記念シンポジウム
「大分県の教育の情報化のあゆみとゆくえ」
18日(木) Opera Piena di Vita本公演 オペラ「魔笛」
24日(火) GEITAN PRESENTS 佐々木典子リサイタル
～ウィーンのクリスマス～
30日(月)～2014年1月5日(日)
街中インスタレーション～大分文化ゾーンイベント～

1月 January

7日(木)～15日(木) 学内ギャラリー「河原貴子展」
16日(木)～23日(木) 学内ギャラリー「permutation」
27日(月)～2月2日(日) 学内ギャラリー「ファブ展」

2月 February

4日(木)～9日(日) 美術科・専攻科造形専攻卒業・修了制作展
5日(木)、6日(木) 卒業研究発表会(国際文化学科、情報コミュニケーション学科)
8日(土) 声楽コース演奏会～声の響宴～

3月 March

22日(土) 第52回 卒業演奏会
23日(日) 第30回 修了演奏会
24日(月) 第52回卒業式・第34回専攻科修了式